

2019 年度 中東研究

第 2 回研究会

日時： 2019 年 10 月 18 日 15：00～17：00

開催場所： 武蔵野大学 1 号館

発表タイトル： 「石油・天然ガス開発における中東と日本」

発表者： 布施哲史 国際石油開発帝石株式会社 ユーラシア・中東事業本部

出席者： 山内昌之、布施哲史、中川恵、小山 堅、辻上 奈美江、廣瀬 陽子、保坂 修司、宮家 邦彦、吉川 恵章、若林 啓史

発表要旨：

石油・天然ガスの探鉱・開発・生産、1859 年以降の世界及び中東の石油・天然ガス開発史の詳細な解説がおこなわれた。さらに石油・天然ガス生産における中東の位置づけに関し、今後の一次エネルギー消費の予測とともに分析がなされた。一次エネルギー消費の予測に関しては、いくつものシナリオがあることが紹介され、その多くはエネルギー消費自体は今後も増加していくが、化石燃料は減少し、太陽光・風力等の再生可能エネルギーが増加するシナリオであると指摘された。一例として石油消費量は 2020 年代半ばにピークアウトし、2050 年にはエネルギー構成の 20.5%に、天然ガスも 2030 年代に消費がピークを迎え、2050 年には 16.5%に減少、逆に再生可能エネルギーは 2050 年には 34%に伸長するとする予測が紹介された。また 2050 年までピーク・オイルとはならないとする予測についても解説された。さらに日本が大きくエネルギーを依存している中東地域での日本企業の石油・天然ガス開発について詳細な解説がなされた。